

## 親の介護 終わり見えないが

老人福祉施設職員

(京都府 46)

大阪の実家で妹と暮らす両親はともに70代で、それぞれ週3回の人工透析を受けるため、クリニックの車で送迎してもらっています。

要支援1だった父は3年前、階段で転倒して骨折。以降、車椅子生活になり、今では要介護3です。母も要支援1で、体重六十数キロの父を小柄な母だけでは世話をできないため、私と妹が協力して介護をしています。

私の自宅と職場は京都で、実家までの間を頻繁に行き来します。週に2、3回泊まることが多い、体力的にも精神的にもへ

一七日です。

父は最近、認知症の初期症状のか物忘れが目立ち、会話も通じにくくなっています。父の介護に疲れた妹が「もう無理や。施設に入れたい」と度々言いますが、費用の比較的安い特別養護老人ホームは、透析など医療依存度の高い利用者の入所は難しいです。両親の年金だけが収入源のなか、父の施設費用に母の生活費までは貯えず、当分自宅と実家を行き来する生活は続きそうです。

子育てと違い、終わりの見えない介護に疲れないと、上手に気分転換しながらやっていこうと思いつつあります。